

## 中高教員の地震流言（地震発生のうわさ）への対応 - 山形県における調査から - Reaction of junior and senior high-school teachers to an earthquake rumor -Investigation in Yamagata prefecture-

織原 義明<sup>1\*</sup>, 鴨川 仁<sup>2</sup>, 長尾 年恭<sup>1</sup>, 上田 誠也<sup>3</sup>

ORIHARA, Yoshiaki<sup>1\*</sup>, KAMOGAWA, Masashi<sup>2</sup>, NAGAO, Toshiyasu<sup>1</sup>, UYEDA, Seiya<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 東海大学地震予知研究センター, <sup>2</sup> 東京学芸大学物理学科, <sup>3</sup> 日本学士院

<sup>1</sup>EQ Prediction Res. Center, Tokai Univ., <sup>2</sup>Dpt. of Phys., Tokyo Gakugei Univ., <sup>3</sup>Japan Academy

2008年に山形県内で広まった地震流言（地震発生のうわさ）について、中学校および高等学校の教員を対象にアンケート調査を行った。中学校と高等学校、性別、年代別、担任の有無、地域別で分類したところ、いずれの場合でも有意な差がみられた。担当教科ごとに比較した場合、理科教員は他の教科の教員に比べこの地震発生の噂を自らインターネット等で調査した割合が高かった。また、地震流言に限らず生徒の不安を癒るような噂への教員の対応に関する質問では、情報リテラシーに言及した教員、組織としての情報共有の必要性に言及した教員は、ともに中高全体でも数%にとどまった。情報リテラシーに対する教員の意識を高めることや、噂を早期に鎮静化するための情報共有のあり方などが今後の課題と考えられる。

キーワード: 地震流言（地震発生のうわさ）, 教員, 情報リテラシー

Keywords: rumor of earthquake, teachers, information literacy